

Q 市長が直接省庁へ出向き交付金を確保したと聞いた。国補助金の概要(補助率、補助限度額)は。

A 補助率10/10、上限額1億8、000万円満額が認められた。

Q 自動運転バスのスペックについて仕様と性能は。

A 基本的仕様に加え、自動運転に必要な各種センサーやカメラを搭載。

Q 自動運転バス事業の期待される効果は。

A 全国から注目されることにより、未来技術の実装に挑戦するまちとしての地域風土が醸成され、新たな産業創出にも期待している。

Q 今後の取組は。

A 他エリアへの展開も今後検討していきたい。また、自動運転は、交通事故やドライバー不足等の解決に寄与する技術と考えている。今後、新たな意味を持つ「ウラボ日本」として、新しい地域づくりを目指していく。



川崎順次 委員



動画でチェック

◆スポーツ施設の充実について

Q 小松市武道館の整備内容等について。

A 武道館については、柔道場、剣道場、体育室に空調設備を設置する工事を令和5年度に着手、令和6年度に完了する。

Q 空調設備について屋内施設の整備状況は。

A 小松総合体育館は既に空調設備を設置済み。末広体育館は、令和7年度に設置を予定。

Q 設置の完成はいつ頃になるか。

A 令和7年度に設置終了する。

◆屋外施設の整備について

Q 今後、陸上競技場やサッカー場ラグビー場について、民間企業とタイアップして整備を行うてはどうか。

A 新たな施設の建設にあたっては、南加賀エリア全体で考え、県や近隣市町とも連携しながら進めていきたい。

Q 小松、能美で松井球場を建設できなにか。

A 非常に夢のある話。夢というより目標としてどのような条件が整えばできるのかを考えていきたい。

Q 陸上競技場は小松の顔。その陸上競技場のスタジアム建設に向けての思いは。

A 今後、市として、南加賀としてどういった大会を誘致するのかを地域のスポーツ協会等とも話をしながら検証していく。

Q 陸上競技場の中に芝のラグビー、サッカー場が出来ないか。小松市が競技力向上、競技場の充実を進めていただきたい。

A 石川県全体の構想が大事であり、知事とも協議しながら進めたい。

令和4年度決算

◆会派自民◆



東浩一 委員



動画でチェック

◆新産業団地調査費

Q 17か所の調査項目は。

A 交通アクセスなどの10項目で評価し、最終的に3か所を選定。

Q 工業用水新設への補助は。また、水利の調査項目追加は。

A 平成11年に工業用水の水源利用可能性調査を実施し、非常に困難と判断されている。現在行っている調査地点で地下水の利用状況のデータがない場合は、追加調査の実施も検討したい。

Q 企業誘致立地助成金制度への反映は。

A 企業が取得する土地や建物を含む設備整備など、雇用促進助成金等と合わせて最大10億円の助成があり、井戸水の掘削等の経費も対象となっている。



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆学校給食費

Q 今決算では中学校分が無償化の対象となっているが、生徒の反応、保護者の皆様の評価をどの様にとらえているのか。

A 児童生徒アンケートからは、「おいしい」と答えた割合が95%あり、満足度が大変高かった。保護者アンケートからは、「家計負担が減り大変ありがたい」の声があった。

Q 給食事業受託業者の事業停止というショックなニュースがあったが、小松市の給食事業は大丈夫なのか。

A 委託形態が異なるため、影響はない。

◆ふるさとこまつ応援寄附金

Q ふるさと納税の収入は2億円以上とあるが、返礼品の費用や小

松市民の方が他の自治体に寄附をされて減収分等を含めるとふるさと納税事業の決算額はいくらなのか。

A 6、272万5千円のプラスとなる。

Q 北陸新幹線小松駅開業に合わせ、ふるさと納税を増やす方策は。

A 目に留まるような写真の使用や、作り手やストーリーが見える魅力的な紹介ページの制作。航空祭駐車券や海鮮類など新規返礼品の開発。サイトにおける閲覧性や回遊性の向上などを、中間事業者や市関係部署と連携して取り組んでいきたい。

◆小松志士の会◆



中西肇 委員



動画でチェック

◆未来型図書館づくり推進費

Q 令和4年度の事業の成果は。

A 基本構想策定委員会や市民ワークショップを通じて、基本構想を策定した。市民と共につくり続ける体制づくりが進んだ。

Q 基本構想で立地場所を芦城公園周辺に絞り込んだ理由は。

A 策定委員会でビジョン・コンセプトとの親和性、公共施設マネジメント等から総合的に評価し、立地

エリアを決定した。

Q 芦城公園内の施設再編、駐車場整備等の課題への対応は。

A 庁内に推進チームを組織し、公共施設マネジメント事業と一体的に検討を進める。

Q リビングラボの役割は。

A 未来型図書館づくりは、市民と共に創ることを重視して進める。市民、事業者、行政等が参画するリビングラボのような組織が地域課題解決のプラットフォームになり得る。



木村賢治 委員



動画でチェック

◆ICT教育環境推進費

Q ギガ端末の買換え時期、準備は。

A 令和7年に更新予定。未来教育推進基金積立金にて準備。

Q 文部科学省の補助金は活用しないのか。

A 国の話でまだ分からない。3分の2の補助金を想定し、残りの3分の1について積み立てている。

Q A1は教員の職を奪うのか。

A A1は社会の在り方に関わる大きな問題である。単に教員の職だけにとどまる問題ではない。A1に

よる教育の支援はどこまで可能なのか。A1との共生社会と学校について私たち教育者がしっかりと考えていかなければならない。

◆無党派◆



木下裕介 委員



動画でチェック

◆子育て短期支援費について

Q 対象とならない1歳未満の乳児はどのように支援するのか。

A 市内に乳児院がないため、金沢の乳児院に委託しているが、近年実績はない。里親であれば利用が可能。

Q 現状、里親の受入れ状況は。

A 2家庭が里親登録されているが、利用にはつながっていない。

Q 里親に支払われる委託料は。

A 夜間預かりは1回につき平日1、500円、休日2、700円。

A 宿泊は2歳未満1万700円、2歳以上5、500円。

Q 夜間預かりは委託単価が安い。委託料の引き上げを。

A 国基準より高めに設定し、他市町と同水準の金額であり、利用者のニーズ等を踏まえ、適切な対応に努めたい。

議会中継 録画配信中

小松市議会ホームページでは、過去の本会議の録画映像を配信しています。

昨年より、パソコンでの視聴に加えて、スマートフォン、タブレット端末からもご覧いただけるようになりました。ぜひご利用ください。



パソコンの場合はこちらから。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 梅田利和
副委員長 宮西健吉
全議員所属

議案第58号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第3号)について

■地域交通推進費(5,000千円)

生活路線バスを運行しているバス会社へのキャッシュレス乗車システム導入支援に係る費用です。クレジットカードとアイカに対応となっているが、観光客の更なる利便性向上を図るため、全国的に使用割合の高い交通系ICカードも利用できるように望む意見がありました。

■小松駅・空港間自動運転バス運行費(190,300千円)

補助金1億8千万円を活用し、自動運転バス2台の導入や車両改造等に係る費用です。小松をPRできるラッピングバスにしてほしいとの意見がありました。また、高額であるので、バッテリー交換や故障の際に適切な対応ができるよう十分に検討した上での慎重な契約を求めました。

■放課後児童クラブ運営費(28,000千円)

放課後児童健全育成事業の国の基準額が改定されたことによる運営費の増額分と放課後児童クラブ職員の手当改善等を行うための費用です。

■小松駅ターミナルプラン推進費(25,000千円)

小松駅周辺の歩行空間の魅力アップ工事に係る費用です。痛みが激しい西口広場の既存シエルトの柱の塗装改修、東口とサイエンスヒルズこまつをつなぐ80スクエアの椅子の改修、案内誘導看板の追加、駅東口広場に椅子の設置等を行うものです。80スクエアの椅子の改修については、イベント時のプロジェクションマッピングがよく見えるよう、設置場所についても検討するよう意見がありました。

■地産地消・食育推進費(1,450千円)

小中学校の給食に特別栽培米(虫米)等を供給し食育活動を行うことにより、環境保全型農業に対する理解を促進する費用です。10月から12月の虫米提供を県と連携し、2月まで延長するものです。また、この期間中に1回だけ、ブランド米「えちやけな」も提供する予定です。児童生徒が持つタブレット端末を活用して、特別栽培米などの周知や環境保全型農業に対する理解促進としてはどうかといった意見がありました。

議案第65号 令和4年度小松市歳入歳出決算の認定について

■一般会計における職員人件費(5,277,824千円)

市民病院や上下水道局等の職員を除く一般会計における職員1,16

3人(うち会計年度任用職員539人)に係る人件費です。

全職員数における会計年度任用職員の割合は高い状況にあり、正規職員の増員を検討してほしいという意見がありました。

■地域協議会活動補助金(5,724千円)

地域協議会等が、結ネットなどICTツールを活用した情報伝達手段の選定や検討を行うための費用を支援するものです。

地域協議会等が導入後も継続して利用しやすいよう、3年目以降の支援や補助率引き上げについて検討してほしいという意見がありました。

■歳入のふるさとこまつ応援寄附金(226,557千円)

令和4年度の個人版ふるさと納税の寄附額です。寄附額から、小松市民が他自治体へ寄附したことによる住民税の減収額及び、減収分の普通交付税措置、返礼品購入やポータルサイト利用料などを勘案した、令和4年度のふるさと納税の実質的な決算額は約6,272万円であったとのことです。

利用者目線での魅力ある商品開発など、より一層寄附額が増えるよう今後も努めてほしいという意見がありました。

■養護老人ホーム措置費(233,123千円)

環境上あるいは経済的理由により、在宅での生活が困難な高齢者に対す

る養護老人ホームの入所措置費等です。

本制度を必要な方が利用できるよう、より一層、制度の周知と受け入れ体制の充実を求めました。

■家族介護用品支給費(18,274千円)

要介護3以上の在宅高齢者に対する介護用品の購入助成費です。

一部の委員からは、利用者の1割負担に反対する意見がありました。

■老人福祉センター運営費(22,834千円)

老人福祉センター「千松閣」の管理を、小松市まちづくり市民財団へ委託するための費用です。

一部の委員から、千松閣の存続を求める意見がありました。

■虐待防止対策費(28千円)

児童あんしん・DV防止合同部会の令和4年度の委員報酬です。

虐待件数は、全国的にも増加傾向にあり、部会の必要性が増しているため、今後の部会の役割や在り方について検討していくよう求めました。

■児童手当給付費(1,576,055千円)

国の制度として、15歳到達後の最初の3月31日までの児童を養育している保護者に対する手当であり、3歳未満の児童には1万5千円、3歳以上小学校修了前の児童には1万円

(第3子以降1万5千円)、中学生には1万円支給するものです。

一部の委員から、所得に関わらず社会全体で子育てを応援すべきであり、所得により手当を減額する同制度に反対する意見がありました。

■医療的ケア児保育支援費(3,858千円)

医療的ケア児の保育受け入れに係る費用に補助するものです。昨年度は、私立認定こども園等2か所、2名への支援がありました。

家庭だけで医療的ケア児を保育するのは負担が大きく、本制度を必要の方が利用できるよう受け入れ窓口の拡充を求めました。

■学校給食費(497、525千円)

市内小中学校27校の学校給食調理業務委託費ほか、準要保護児童・生徒に対して給食費を援助する給食扶助費等です。

給食に関する児童及び保護者アンケートにおいても、児童の満足度が高く、保護者からも好評を得ているとのことでありました。

他市の給食事業を展開する会社の営業停止報道を受け、小松市の給食委託の現状についての質問があり、報道の市とは委託形態が異なり、当市の給食委託に同様の影響はないとの説明がありました。

一部の委員から、学校給食調理の民間委託に反対する意見がありました。

■交流推進費 市民交流プラザ管理運営費(14、930千円)

ザ・マッツ市民交流プラザ管理運営に係る経費です。

委託管理している健康交流施設については、小松で一番付加価値が高かろうと思われるエリアにあり、その場所でダンスや体操等での少人数の利用しかない状況では、活用方法として本当にふさわしいのか疑問であり、もつと有効活用するべきとの意見がありました。

■820ステーション管理運営費(2、302千円)

820ステーションの管理を、こまつ賑わいセンターへ委託するための費用です。820ステーションは場所的には良いところなので、今後新幹線が開通した中でも従来のような待合室的な意味合いの利用だけが良いのか、少しもつたないようにも思われる。新幹線開通を機会に新しいニーズ等に対応できるように考え方も必要ではないかとの意見がありました。

議案第66号 令和4年度小松市公営企業会計決算の認定について

■院内保育事業費(12、879千円)

夜間勤務する医療職員の職場環境の改善のため、乳幼児・児童の保育を行う事業費用です。

今後ともより良く活用されていくよう利用者の声を聴きながら実施していきたいとの意見がありました。

総務企画

委員長	片山 瞬次郎
副委員長	南藤 陽一
委員	吉柴 文悟
〃	中野 肇
〃	新田 寛之
〃	高野 哲郎
〃	宮西 健吉
〃	川崎 順次

■報告第14号 地方独立行政法人の業務実績に関する評価結果の報告について

公立小松大学の令和4年度全体評価はA評価と、5段階のうち上から2番目の、順調に進んでいるという評価であったとのこと。

今後、地元企業への就職者が増えることを望む意見や小松市において公立小松大学の学生文化が着実に根付いていくことを期待する意見がありました。また、キャンパスの配置や利用の仕方、学科の新設など、今後の大学のあり方等に関する意見が出され、大学の更なる発展を期待するものです。

■未来型図書館の整備に向けた基本的な考え方について

既存施設の集約・再編等の基本的な考え方としては、既存施設の機能の再編・見直しを図りつつ未来型図書館に集約する、教育研究センターの機能を芦城公園外に移転するとい

う方向性で検討を進めているとのこと。

公会堂については、現在の機能が他施設で対応可能か、他施設で対応できない場合は郊外に新設等する必要性があるのかなど、まず公会堂の機能をどうするかの方向性を行政として決めることが一番先ではないかという意見がありました。また、複合型施設であれば広い駐車場が必要となるため、駐車場整備をしっかりと検討するよう求める意見がありました。

さらに、教育研究センターについて、教育相談といった機能面に十分配慮した上で移転先を選定するよう求める意見がありました。

執行部では、年内を目途に、導入機能や具体の立地場所の方向性を示す予定とのこと。

■請願第2号 健康保険証廃止の中止等を求める意見書採択の請願について

本請願は、健康保険証の廃止とマイナンバーカードへの一体化について、国に対して中止を含め見直すことを求める意見書の採択を求めるものです。

マイナンバーカードと健康保険証の一体化については、現在も国において慎重に議論されている事項であることから、全会一致をもって、不採択とすべきものと決しました。